

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2017.12.1

vol. 36

秋の実り(果実ではないものはどれ?)



赤谷の森でわかったこと

「未来へつなぐ森づくり」

「親子ドングリ拾い」

新治小学校PTA会長 村山 英樹

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

工舎澄み処 山口長士郎

● たくみの里「みなかみ田んぼプロジェクト」

マッチ絵の家 竹田 耕太

赤谷の森 ミニ写真館

今回のテーマ

『まなざし』

(一部写真はサポーター提供)



ニホンカモシカ



ニホンジカ



ホンドギツネ



クマタカ



アカハライモリ



モリアオガエル



サワガニ



アキアカネ



オニグルミ



アケボノソウ

赤谷の森で わかつたこと

未来へつなぐ森づくり

親子ドングリ拾い

新治小学校では、開校当初から赤谷プロジェクトの皆さんにご協力いただき、サマースクールや三国山の遠足などを通して自然の仕組みや生き物の不思議などを学んでいます。また昨年からは、当時ユネスコエコパークへの登録を目指していたみなかみ町が推進する「木育」をスタートさせました。その一つである「未来へつなぐ森づくり」親子ドングリ拾い」は、新治小学校PTAと赤谷プロジェクトの協働によって実現することができました。国有林のドングリ（コナラの実）を拾って育て移植して、自然の森に近づけようというのです。昨年は、親子総勢70名ほどの方が参加してくださいまし

た。牛乳パックを切った鉢に、その森の土を8分目ほど入れ、拾ったドングリを乗せて、落ち葉をかぶせ、なるべく自然に近い状態にします。それを各々が自宅に持ち帰り、芽が出るように管理してもらいました。

今年はその発芽したドングリの芽を、自然の山でも生き抜いていけるくらいの苗にするため、赤谷の森（いきもの村）の苗床に植え替える作業を行いました。小雨の降る中、約60名の親子が参加し、半分が植え替え、半分がドングリ拾いと交互に実施しました。昨年拾ったドングリは207個、学校でも育てていただいて、そのうち芽が出たドングリは29個で14%の発芽率だったようです。成長もまちまちで最大が35cm、最小が6cmだそうです。各々が持ち帰ったドングリの芽を、苗床に植え替えました。そして、また来年のためにドングリを拾い、昨年同様、牛乳パックの鉢で育てます。今年はドングリ（コナラの実）だけでなく、栗の実やカエデの芽も持ち帰って育ててみることにしました。

親子ドングリ拾いは、単に自然林に戻すための活動ではありません。ドングリを育て苗にし、植林して育成管理し成長させる。それを



牛乳パックの鉢にドングリと土を入れる

木材に活用して木のおもちゃなどを制作するといった展望をもっています。ドングリ拾いをした子どもたちが、大人になって自分の子どもができて

た時、自分の育てた木のおもちゃで遊ぶ。そして「この木はパパが育てた木だぞ。」って言えたら、とても素敵なことではないでしょうか。まさに「未来へつなぐ森づくり」であり、新治小学校独自の取組だと思えます。しかし、実現するまでには長い時間がかかります。この取組を維持し継続していくための方法や仕組みを考える必要があるでしょう。それと同時に大切なのは、子どもたちが感動することだと思います。今回、子どもたちは、ドングリを拾うことを純粋に楽しみ、芽が出ることを純粋に喜んでいました。この「楽しみ」や「喜び」が継続していく力になるのだと思います。今後もPTAとして、子どもたちが感動してくれるような「未来へつなぐ森づくり」を続けていければと思っています



苗の移植



ドングリ拾い



多くの方にご参加いただきました

writer....



新治小学校 PTA 会長
村山 英樹

地域と繋がる赤谷プロジェクト

すみか 工舎 澄み処

山口長士郎さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

親子3人+職人さん+動物(たくさん)で「澄み処(すみか)」という工房を営んでおります。

4歳のころからみなかみ町の山奥で暮らしています。自然に囲まれた半自給自足の暮らしを送りつつ、地元の木材や土壁を使った自然素材の伝統的な家づくりを続けています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合ったきっかけを教えてください。

大学生の頃から日本自然保護協会様の活動に注目していました。Uターンでこちらへ戻ってきたタイミングで赤谷プロジェクトに参加しました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

我々が行う伝統的な家づくりは、多様性をもつ大自然と密接に関わりあって共存しています。

赤谷へ足を運ぶ度、花を見て虫を見て、自分の仕事を見つめ直すキッカケを得られます。



学びを活かして、いずれは赤谷プロジェクトに対して「伝統」の側面から良い影響を与えられるようになったらと思います。

例えば、赤谷の材を使ったアート作品を伝統工法で仕上げるなど、可能性はいくらでも広がっています。

工房のPRを一言!お願いします。

新築住宅、リフォームなどお気軽にご相談ください!



たくみの里

「マッチ絵の家」から

みなかみ田んぼプロジェクト



たくみの里
マッチ絵の家
竹田 耕太さん



たくみの里 マッチ絵の家

赤谷プロジェクトの出島さん((公財)日本自然保護協会)が、「田んぼやりませんか?」と怪しい言葉をかけてきたのは2015年の秋のはじめ頃でした。

今から数年前、出島さんは利根川上下流交流のシンポジウムで千葉県香取郡にある酒蔵「寺田本家」の寺田優さんと出会い交流を開始。親交を深める中で「利根川上流域でお米を作り下流域の寺田本家でお酒となる!」という夢を見始め、2016年、酒好きなお調子者が集まる「マッチ絵の家」の有志によって「みなかみ田んぼプロジェクト(仮称のまま現在に至る)」がスタートしました。

そして、須川の兼業稲作農家である梅澤親子を中心に、自然に学ぶ酒造りをモットーとする「寺田本家」の鉄則「無農薬米でお酒を造ること」に賛同する同志が集まりました。田植えや草取りなどの作業を協働で行うことで昔風のお米作りを少しずつ学び、作業後に酒を酌み交わすことで仲間意識が生まれました。

「赤谷プロジェクト」と「寺田本家」という確固たる存在によって方向性もぶれることなく賛同者が少しずつ増え、現在約60人のメンバーがいます。怪しい企



田植え作業風景

みから始まった同志の輪から、多様性を尊重した協働体という新しいコミュニティの形が芽生えているように思います。



今年も稲刈り完了!

赤谷プロジェクトに関するイベント予定

赤谷の森自然散策(冬)

開催日: H30.2.4(日)

・イベントの詳細等は準備ができ次第赤谷センターウェブサイトに掲載いたします。





色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H29.8.11

21世紀の森まつり

利根沼田森林管理署と共同で、森のかけらストラップ作りなどの体験ブースを出展しました。



H29.8.19

夏休み親子いきもの観察会

赤谷の森のホンデテンのお話を聞き、ムタコ林道を散策しながらいきもの観察を行いました。



H29.8.26

猿ヶ京温泉赤谷湖上花火大会

地域協議会和赤谷センター共同で、ヒノキの球果ストラップ作りなどの体験ブースを出展しました。



H29.9.4

赤谷の森で皮むき間伐体験会

NPO「森の蘇り」の協力を得て、立ったままの木の皮をむいて枯らす皮むき間伐体験会を開催しました。



H29.10.3

沼田北小「森の探検ウォークラリー」

赤谷の森のいきものや、森と私たちのつながりについて学習しました。



H29.10.4

新治小「旧三国街道遠足」

旧三国街道を歩き、街道の歴史や森について学び、子供達と自動撮影カメラも設置しました。



H29.10.5

群馬県立農林大学校「森林管理実習」

自然林復元試験や二ホンジカ対策、溪流環境復元の取組などについて学びました。



H29.10.15

親子どんぐり拾い～新治小、未来へつなぐ森づくり～

新治小PTAと赤谷プロジェクトが連携し、いきもの村でコナラの苗の移植やどんぐり拾いをしました。



H29.10.21

赤谷の森自然散策(秋)

みなかみ町との共催で、旧三国街道の紅葉の森を散策し、民話の語りや紙芝居の実演を楽しみました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は [赤谷森林ふれあい推進センター](#)

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・島

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

(公財)日本自然保護協会

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/>

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 魚住 悠哉

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp